

石岡未来会議 vol.5 まとめ

第1回

A【学校と地域の理想的な関係】

1. 学校の開放性と居場所づくり

- ① 保護者や地域の人がいいつでも自由に入出りできる。
- ② 学校内や隣接した場所にカフェや相談スペースを設け、集える場所にする。
- ③ 保護者や地域の人が授業に参加できる環境を整える(例:家庭科でのミシン指導など)。
- ④ 地域の人が集まり、活動できる場の設置。

2. 交流と学び合いの場

- ① 子どもも大人もお互いに学び合い、教え合う環境を大切にする。
- ② 地域の人から学ぶ授業を検討する(例:米作りなどの地域の知恵を活かす)。
- ③ 学校・地域の交流の場を設け、関わりを深める。
- ④ 場設定の際は、各々の自主性にまかせ、活動への強制はしないようにする。
- ⑤ 芸術・文化に全ての子ども達が触れられる機会をつくる。
- ⑥ 目指すべきビジョン(どんな学校にしたいか、どんな子どもを育てたいかなど)を共有する場がある。

3. 安全・安心の確保と防災・防犯への協力

- ① 保護者、地域の人、学校全体で防犯や防災に協力し、安心できる環境を提供。
- ② 地域、保護者、学校が協力し合い、顔の見える関係性を築く。

4. 地域にとっても交流できる場である学校

- ① 学校は地域と一体となり、行事や活動を共有する場にする。
- ② 困り感や理想の子ども像を地域全体で共有し、サポートし合う環境づくり。

5. すべての子どもたちが楽しめる学校

- ① 障害のある子もそうでない子も、毎日笑顔で通い、お互いに学び合える。
- ② 学校が楽しい場所であり、心の拠り所となる。

6. 世代を超えた参加と学び

- ① 年齢に関係なく、すべての世代が自由に参加し、学び合える場を提供。
- ② 横のつながりを大切にし、思いやりと笑顔があふれる学校を目指す。

B【学校と地域の理想的な関係を構築するための課題】

1. コミュニケーションの不足

学校と地域間の連携が不足しています。

互いに顔が見えにくいことや情報共有不足により、協働活動に対して、学校側・地域側共に抵抗感が発生しており、目指すべきビジョン(どんな学校をつくるか、どんな子どもを育てるか など)も共有できていません。また、世代間のギャップや多国籍化などコミュニケーションを取る方法に工夫が求められる場合もあります。

2. 人材不足

少子高齢化社会により、学校・地域で人手不足が発生しています。共働き家庭や核家族、地域の高齢化により、活動に参加できる人が減少しています。

また、地域にどんな人がいるか、学校はどんな人を必要としているか分かりづらいという問題点もあります。活動をしていくうえで、リーダーシップをとれる人やコーディネーターの育成も必要です。

3. 安全・安心の確保

学校内外での防犯対策や個人情報の管理など、安心・安全の確保が課題となっています。

4. 活動の活性化の難しさ

コミュニティ・スクールがまだ浸透しておらず、地域・保護者・学校もよくわかっていません。そのため、活動へのかかわり方などを周知する必要があります。

誰か任せにするのではなく、自分事化させること、また、活動に楽しさややりがいを感じられることが継続性のカギです。

C【課題のある状況から理想へ近づくために自分たちができること】

1. 地域等との連携強化

地域や保護者は、学習支援や農体験などの既存の活動や自身のできることを活かして、学校の活動をサポートすることができます。これには、子どもたちへの実体験型学習も含まれます。

学校や行政は参加してもらい機会を作ることやその仕組みづくりなど「開かれること」が必要です。

機会の創出には、コミュニティスペースなど集える場所を作り、子ども・大人双方が楽しむなどの方法もあります。

2. 情報の見える化・関心を持つ・伝えて共有

子どもの理想の姿や学校の困りごと、各々のできることできないことなどを見える化し、みんなで共有できるようにします。

関心を持つことで、今までの視野外の情報が入ってきます。

それを身近な人へ伝え、関心の輪を広げていきます。

3. 防犯・防災活動の強化

校内で活動するときのルールを明確化します。また、見守りや声かけをすることで、地域全体で安全を確保します。

第2回

D【地域と学校が知りあうためにやるといいこと】と【⇒そのためにできる第一歩】

1. 交流の場を設ける

地域住民と学校の間を深めるためには、顔を合わせる機会を増やすことが重要です。具体的には、授業参観やオープンスクール、地域の行事への参加、学校主催のイベント(運動会や学習発表会など)を通じて、地域の人々が学校を訪れる機会を増やすことが挙げられます。また、学校内に地域の人が集まるコミュニティルームを設けたり、飲み会やお茶飲みサロン、座談会などの気軽に足を運べ、顔をあわせて交流できる場を設けることも効果的です。学校・地域がお互いに顔を知り合うことで、防犯力の向上にも繋がります。

⇒授業参観を地域に公開・招待、地域でも活動への参加を勧める

場(空き教室・プレイパークなど)の活用

地元農家や NPO 団体と協力する

2. 協働活動の推進

地域と学校が一緒に活動する機会を増やすことも重要です。地域の行事に学校が共催したり、学校に地域の達人を招いた講習や体験学習会を実施することで、相互理解を深め、さらに地域の特性や知識を子どもたちに伝えることができます。地域と学校が協働で活動を行うことで、子どもたちにとっても身近な存在となり、地域への理解が深まります。

(例)エディブルスクールヤード:学校食育菜園を地域と学校が年間を通して運用することで、子ども達は「育てる→料理する→食べる」の過程を学び、地域との関わりを継続してつくります。

⇒地域・子どもの参加する楽しいイベントの開催

学校支援応援団への登録

3. 情報発信と共有

地域と学校の連携を強化するためには、情報の発信と共有が欠かせません。学校の活動や行事について定期的にお知らせを発信したり、地域の掲示板やブログを活用して情報を共有することが重要です。また、学校側から地域の人々に関わりたい人を募集することで、地域の人々が学校に参加しやすくなります。

学校の課題の共有し、理解と活動へつなげるため、困っているリストや解決リストなどを市全体で見える化させることも大切です。

⇒地域住民は学校からの発信に関心を持つ

情報発信(アナログ・デジタル双方での)

仲間づくり、あいさつ、見守り

4. 参加型のイベント

地域と学校が一緒に楽しむことができるイベントを企画することも効果的です。フリーマーケットやバザー、夕涼み会、ゲーム会など、地域の人々が参加しやすいイベントを通じて、自然な形で交流を促進することができます。また、地域の文化祭や敬老会への学校参加も、地域とのつながりを深める良い機会です。

⇒参加して活動を楽しむ

5. 相互理解と信頼関係の構築

地域と学校の間を深めるためには、心理的な安心感を醸成させることが大切です。地域の人々が学校を訪れることに対して抵抗感を持たないよう、学校側がオープンな姿勢を示すことが求められます。例えば、学校の先生が地域活動に参加したり、地域の人々と話す機会を増やすことで、相互の理解を深め、徐々に信頼関係を築くことができます。また、学校・地域のかけはしとなるコーディネーターの育成も重要です。

⇒アイデアを実行する前に学校にも相談する、対話

6. コミュニティ・スクールの横のつながりの構築

学校運営協議会同士の横の連携強化(【例】中学校区の交流など)により、各学校運営協議会が情報を共有することで、課題に対する解決策へのヒントを得ることができるなど、より良いアイデアを得ることができます。

7. 学校が統合した後のことを考える

現在の小学校で、コミュニティ・スクールの体制ができたとして、小学校が統合した後どうなるかを考える。